

# 断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会  
 事務局 呉市 押 込 5-12-25  
 渡部 憲方  
 郵便番号 737 - 0915  
 電話 33-5571  
 発行人 渡部 憲  
 編集代表 石橋 剛  
 印刷 松広印刷



### 第 47 回広島県断酒(庄原)大会にて



## 『例会出席・一日断酒』

理事 高井 行雄

「もし、自分がアルコール依存症ならば、一緒に飲んでいる仲間も皆依存症になるんじゃないか？」これは約15年前、神戸に居た時に病院で最初に依存症と宣告された時、先生に返した言葉です。中々依存症とは納得出来ませんでした。が、勧められるとお入り入院・治療することにしました。

病院では、アルコールに関するカリキュラムに従い学習し、週に一回水曜日にはトレッキングがあり、山の中を走り回ったり、ダムの周りを歩いたりという行事がありました。退院までに近場の断酒会やAAに10回以上参加するというノルマがあり、自助グループがどんなものか知ることが出来ました。残念ながら、当時お世話になった神戸の断酒会に入会することはありませんでしたが、今思えばまったく甘い考えでした。「自分なら、一人でも断酒は出来る…」と思ったからです。案の定、退院後一月足らずで一人断酒は頓挫…!! 飲んだり、飲まなかったりの生活に戻ってしまいました。

をかけたのですが、電車通勤時に夜遅くまで飲んで終電で帰るのに、最寄り駅を寝過してとんでもない所まで行ってしまったり、酒を飲み続けた結果、急性胃潰瘍になって吐血・下血をして倒れ、救急車で救急病院に搬送されたり等の失敗を反古にする考えでした。

平成19年、呉に来て仕舞いには一杯飲んだら止まらない酒になり、呉みどりヶ丘病院に入院しました。入院は、6年間に7回にも及びましたが、この原因は「現実逃避」に他ならなかったと思います。

退院する度に、故長尾澄雄院長先生の勧めに従い当会に入れて頂きましたが、例会出席の足が止まるとどうしても酒に手が延びてしまうという状態が続きました。中々切れなかった酒でしたが、お陰さまで当会の中で、例会出席を続けることによつて何とか断酒を続けさせて頂いています。

断酒に係る三つの「あ…」!!  
 「あせらず…!!」「あわてず…!!」「あきらめず…!!」「例会出席あつての一日断酒…!!」頑張ります。

# 第47回広島県断酒(庄原)大会

梅雨の晴れ間の6月18日(日)、

島根・鳥取県に接する広島県北部に位置する庄原市の庄原市民会館に於いて、第47回広島県断酒(庄原)大会が医療、行政、朋友会員・家族の方達320名が集い、盛大に開催された。当会からも38名の会員・家族が参加。

大会は、テーマ『苦悩から飲むの断酒へ』のもとに進められた。

体験発表は、県連加盟断酒会から4名が本人・家族の立場から発表された。呉みどり断酒会からは、山内鉄平さんが本人の立場から発



表された。

今大会は、昨年アルコール基本法が施行されて初めて市との共催で開催された広島県断酒(安芸・高田)大会に続き、本年10月1日開催予定の第54回全国(広島)大会を全国に先駆けて4月1日に広



島県との共催が正式決定した直後の大会であったためか、来賓の方達の祝辞の中にも基本法の施行結果に期待する言葉を多く頂き、中でも印象的だったのは『色々な依存を抱え込んで生活し、依存すること eyes を逸らし、先送りする人

が多い現代社会、アルコール問題の解決機関としての断酒会活動に期待する』でした。『基本法』施行にあたり、地域断酒会がさらに地域社会に貢献することを期待されてることを知る大会でした。

記念講演は、全断連顧問、呉みどりヶ丘病院院長尾早江子先生によるテーマ『アルコール依存症からの回復《生きるよろこびを求めて》』と題して講話を頂き、県大会は盛会裏のうちに閉会した。

## 体験発表



山内 鉄平 (本人)

お世話になります。呉みどり断酒会の山内鉄平と申します。お陰さまで頑張らせてもらっております。本日は、第四十七回広島県断酒(庄原)大会の開催、おめでとうございます。この良き日に体験発表の機会を与えていただき、誠にありがとうございます。それでは体験発表を宜しくお願い致します。

ひどい人生を生きてきました。

「もう何も考えたくない」と酒を飲み始めるのですが、その酒がまた止まらない酒でした。夜中の十二時にさしかかるくらいには、「もう止めにや明日にひびくぞ」と思うのですが「あと一杯で止めよう…」その一杯を飲んだら「次で止めよう」……「いやいや全部は飲まん。明日の分を買つて…」結局、朝方まで飲んでしまう…。

次の日はひどい二日酔いと後悔で目を覚まし、酒臭い息で出勤する。朝寝坊、遅刻、無断欠勤。失態を仕事でカバーしようと口からでまかせを言い、職場では益々嫌われ、クビになったり、自分から辞めたり、職場を転々としてきました。収入がなくなり、アパートを追い出されるたびに実家に帰っていました。実家が自営業をしていたので何とかしてくれるだろうという甘い考えがありました。

帰っては追い出され、帰っては追い出されるの繰り返し。実家に帰つてすぐはチyun太郎になって、おとなしくしようと思うのですが「仕事もしよるんじやけん、一杯くらいえかろう…」またしても止まらない酒でした。家族からも嫌われて父親からはゴキブリよば

わりされ、母親からは「あんたを殺して私も死ぬ：!!」と言われたりしたことも有ります。家族から死んでほしいと思われていて面白いわけもなく「もう、何も考えたくない：」と酒を飲み始めるのですが、その酒がまたしても、またしても止まらない酒でした。

こんなひどい言葉をおつ付けてくるなんて《それでも親か：?》と親を恨んだり《友人達は結婚して子供を育てて家を建てて：》自分にはとうていできそうもないことを成し遂げていて《こりやそうとう悪いことしとるに違いない》と友人達を妬んで、職場に対しては、《自分を上手に使えない会社が悪い》と憎んでいました。この思いこそが「自分一人の力だけではどうにもならないことを認めている」ことに他なりません。自分一人の力だけではどうにもならないから、世の中を呪っていました。この頃には僕自身も、もう死んでしまいたかったのです。

或る日のこと、突然背中に激痛がはしり立っていらなくなり、死にたい死にたいと思っていた僕なんです、体が痛いには耐えられず、内科病院に行きました。



「あなた、死にますよ」と言われ、即入院。劇症肝炎ということでした。貯金なんてものもまるで無かった僕は、音信不通だった実家に連絡をしました。死にかけているということでは親は駆けつけてくれました。内科のお医者さんが僕にいないところで「最悪の事態を覚悟して下さい：」と説明した時、父は目に涙を浮かべていたそうです。その場に同席していた会社の人に教えてもらいました。「お前の親じゃ言うけん、どんなろくでもない親が来るんかと思うたら：、いい親じゃないか：。泣きよったで：!!」この時の父の思いはどんなものだったのか：?。《自分の子供が死にかけている。可哀そう》

とかもあつたかも知れませんが、一番大きかったのは「情けない：」というものではなかったか：?。音信不通だった期間にも母はノイローゼで苦しみ続けていて断酒会に一人で通っていたそうです。そのことも僕は、その時に初めて知りました。

「はあ：、もう飲まれんのか」と思う反面、今まで何千回、何万回も「やめる」「やめます」と言ってきた。どの口が言うんか。《どうせ、今度もまた止めらりやあせんのじゃ》と思うと「止める」とはよう言いませんでした。母が「呉市にアルコール依存症の専門病院があるらしいけど、どうする：?」と聞いてくれました。入院費用を立て替えてもらわにやいけんし、今までやってきたことを考えれば従うしかない状況でした。僕自身も《今まで思いつく限りのことを試してきて全てダメだった。今までやってきていない何かをしなればいけない》そう思い、僕は転院を決意しました。

転院して一件落着きいけばよかったのですが、そうはいきませんでした。一悶着も二悶着もありました。とにかく、退院する・させ

ないで採めました。僕は身体の状態で回復し、断酒会に通わなきゃいけないことはわかってるんだし、もう退院してもいいだろうと考えていました。しかし、家族は同意してくれませんでした。「退院させてくれ」「退院した後、ちゃんとやって行けそう：?」「いや、自信は無い：」「じゃあ、退院できないじゃない」「これの繰り返しでした。母が面会にくるたびに断酒会の話しをしたり、断酒研修会で貰ったカーネーションを渡してみたり、CRAFT療法についてや病院で教わった治療法について説明してみたり、色々やってみましたがダメでした。母は「叶うものなら、一生入院していてもいい」と思っていたそうです。

母が望んでいたことは、例会出席回数が何回とか、断酒継続期間が何日・何ヶ月・何年とか、あなたが思いの持ち方を変えて下さい。はいCRAFT療法とか、そんなものはありませんでした。「もう止めます」の一言を母は待つていたんだらうと思います。しかし、僕にはその一言が言えませんでした。真剣に先のことを考えれば考

えるほど、そういつた言葉が出て

きませんでした。「もうやりませ  
ん」「もう止めます」「今度こそち  
やんとします」今まで何千回も何  
万回も同じような言葉をはいてき  
て、結果、同じことの繰り返し。  
病院で学んだことは「明日は飲む  
かもしれない。でも、今日は飲ま  
ない。明日は飲むかもしれない。  
でも、今日は飲まない」その繰り返し  
返しなんだ。明日の約束ができな  
い人間になつたんだって…。分か  
つてもらえないもんだなあ…。そう  
思いました。

**結局、僕は親と縁を切つて病院  
を出ることにしました。**この時の  
思いとしては《甘えた関係を断ち  
切る》とか《背水の陣を敷く》と  
かいうのもありました。アパ  
ートを借りて独り暮らしを始めて、  
たつた一ヶ月くらいで僕は家に電  
話をしてしまいました。あまりに  
寂しすぎて「こりやまずい。飲む  
かもしれない」と不安になつたから  
です。この時、僕は「寂しくなつ  
た時だけでいいから、電話かけた  
りしてもいい?？」と聞きました。  
電話に出たのは父だったので、  
こう返されました。「ムシのええ  
こと言うな…。お前の言つたこと、  
やつたことが原因で、お母さんの

心はボロボロになつとるんで…。  
寂しくなつたら、電話してもいい  
か?。ムシのええこと言うなよ」  
僕は返す言葉がありませんでした。  
この時の家族の思いとは、「いつま  
で辛抱すればいいのか。いつまで  
酒害は続くのか」といつたものだ  
つたのじゃないかと思ひます。酒  
を口にしていなくても、家族には  
迷惑ばかり掛けてきています。  
「苦惱から、飲みの断酒へ」と  
テーマがありますが《断酒の飲ひ》  
とは「引け目を感じなくてすむよ  
うになること」と入院中に教えて  
もらいました。正直、僕は引け目  
を感じますし、負い目も無くなり  
ません。仲間の訃報や仲間の再飲  
酒の話を聞くと悲しいし、つらい  
し、悔しいし、自分が情けなくな  
ります。力になれない自分を恨め  
しく思ひます。  
しかし、ここに來させてもらつ  
て、こうも思ひます。《一人じゃ  
ない。世の中は、不公平じゃない。  
世の中は、とてもうまくできてい  
る。》と。いろんなことがありま  
すが《例会出席あつての一日断酒》  
続けて行きたいと思ひます。  
ご清聴、有り難うございました。

## 第52回中国断酒ブロック(山口)大会 体験発表



胤森 佳代子  
(家族)

事という事もあつてか、次の日は  
ちゃんと時間どおりに出勤し、普  
通に生活を送っていました。

皆さん、こんにちは。広島県連  
呉みどり断酒会家族の胤森佳代子  
です。本日は、第52回中国断酒ブ  
ロック(山口)大会の開催おめで  
とうございます。この良き日に体  
験発表の機会を与えて頂き、誠に  
ありがとうございます。

私は、ここ山口県の出身です。  
主人とは高校卒業と同時に現在主  
人の勤務先である半導体メーカー  
に同期入社し、結婚しました。主  
人は結婚前に原因不明のI型糖尿  
病を発症し、毎食前にインスリン  
注射を打つ生活となり、現在27年  
間その生活を続けています。それ  
があつてか結婚当初は晩酌も毎日  
ではなく、飲んでも缶ビール35  
0mlを飲む程度のお酒でした。そ  
れが、出張の多かった主人が出張  
先での接待や会社の飲み会などで  
どんどん飲む量が増えていきまし  
た。それでも、遣り甲斐のある仕

しかし、結婚して十年が過ぎた  
ころから会社で残業規制が掛かり、  
処理出来なくなつた仕事を家に持  
ち帰るようになりました。自宅と  
いうこともあり、ビール片手に仕  
事をする日が増えていき、朝起き  
るとパソコンの周りには空き缶が  
何本も転がっている状態になつて  
いき、休みの日も朝からお酒を飲  
みながら仕事をするようになりま  
した。それが嫌で止めてくれるよ  
うに頼むと逆ギレされ、この頃か  
らお互い口を開けば喧嘩と言つた  
毎日となりました。私にはお酒を  
飲みながら仕事をする主人が全く  
理解出来ませんでしたし、普段主  
人も仕事のことばかり話さない  
人だったので、酔いがまわつ  
てくると上司・部下・仕事の不満  
を言うようになりました。最後に  
は私への不満で暴力こそありませ  
んでしたが、暴言はすごいもので  
した。そして、人との付き合いを

しなくなり、一人酒をするようになってから、主人は笑わなくなり  
ました。

平成20年6月下旬には会社にも  
行けなくなり、心療内科を探し二  
人で受診しました。その時、**鬱病**  
と**アルコール依存症**と診断され、  
先生からは断酒会の連絡先を教え  
て頂きました。しかし、この時私  
達は鬱病でアルコール依存症にな  
ったのだと思つてしまい、鬱病が  
治れば依存症も治ると勝手に判断  
してしまい断酒会に繋がることは  
出来ませんでした。シアナマイド  
も処方されていたので2ヶ月くら  
いはお酒を止めていました。しか  
し、依存症を理解していない夫婦  
でしたので、すぐにお酒が入るよ  
うになりました。そして、鬱病の  
診断書を出して頂き、2年間とい  
う長い長い休職生活を送ることに  
なりました。この間、シアナマイ  
ドを飲んでいられるにも関わらずお酒  
を飲み、度々倒れては血だらけに  
なるような怪我をしていました。  
すごく深い傷でも飲んでいられる  
せいか、まったく痛みを感じていま  
せんでした。

飲んでいられる主人に向つて「なん  
で、そんなに飲むの：？」「もう、

お酒は止めて：」と責めれば隠れ  
酒が始まり、トイレやベランダ、  
庭とあらゆるところに空き缶が転  
がっていました。また、お酒が無  
くなると「血糖値が高いから散歩  
に行く」と言いながら近所のコン  
ビニでお酒を大量に買って飲み、  
また責めれば暴言の繰り返しでし  
た。あまりの暴言で、怖くて主人  
から逃げるように車の中で寝たこ  
とも一度や二度ではありません。  
話すことで喧嘩になるのなら話し  
なければいいと思ひ、会話も笑顔  
も無い夫婦…。来年にはどうなつ  
ているのかな：？。明日にはどう  
なっているのかな：!!と思うばか  
りで誰にも相談できない辛い辛い  
毎日でした。唯一、主人の両親に



だけには相談しましたが、結局家  
族だけではどうすることも出来ま  
せんでした。そして、復職期限が  
迫り、主人も会社を辞めるわけに  
もいかず何も変わらないまま復職  
しました。

復職し暫くすると、朝酒をして  
出勤するようになりました。飲ん  
でないと言い張る主人を見張るこ  
とも疲れた私は見て見ぬふりを  
するようになっていました。そし  
て、私の両親にだけは心配を掛け  
てはいけなれないと思ひ、ずっとお酒  
のことは黙っていました。どう  
とう平成24年の年末に電話で私の  
両親に**暴言を吐き**、巻き込んでし  
まうことになりました。何かある  
前に如何にかしなければと主人の  
両親と相談し《入院させたほうが  
良いのではないか：？》《でも、  
本人はきかないだろう》と悩んで  
居た時に、**会社で飲酒が見付かり  
呼び出されました。**

私が着くなり、保健師さんから  
「主人は、アルコール依存症で  
はありませんか：？」と聞かれま  
した。限界だった私は「はい。病  
院から、そう言われています」と  
答え、詳しく話を聞きました。

会社内でフラフラ歩いているとか、

下駄箱の中に飲みかけの缶チュー  
ハイがあつたなど、ショックで涙  
が止まりませんでした。産業医の  
先生、保健師さん、上司の方二人  
と私…。五人で話し合いをしました。  
私が「クビですか：？」と聞くと

「そうならないために**専門病院  
で入院治療**して下さい。そうし  
なければ、二人共が駄目になりま  
すよ：」といわれました。その時、  
主人は**医務室のベット**でいびきを  
かいて寝ていました。情けないと  
思ひながらも、これだけの迷惑を  
掛けたくえ、**専門治療**を勧めて下  
さつたことに大変感謝しました。

平成25年4月に心療内科で呉み  
どりヶ丘病院を紹介して頂き、亡  
くなられた前院長、長尾澄雄先生  
の診察を受けました。入院治療は  
絶対嫌だと言つていた主人ですが、  
澄雄先生の一言一言に納得したの  
か、アツサリと即日入院をしまし  
た。そのまま閉鎖病棟に行つた時、  
看護師長さんから、「今まで、本当  
に辛かつたでしょう。大丈夫だか  
らね：」と言われ、少しかだけホッ  
としました。それから、4ヶ月半

入院しましたが、3ヶ月くらいま  
では「一人で断酒が出来る：」と  
言つていました。このままだと、

退院してもまたお酒を飲むだろうと思いましたが、嬉しいことに自ら断酒会に入ろうと決めてくれました。病院でのアルコール学習会や断酒会員さんとのオープンミーティングの中で「一人では断酒は出来ない：!!」と感じたそうです。私も見学でみどりの会の水曜例会に参加した時に、同じように苦しんだ方々となら、主人の断酒に協力出来ると思ひ、家族会員になることを決めました。

そして、退院と同時に呉みどり断酒会に入会して三年半が経ちます。現在、例会出席する中で私だけが苦しんでいたと思つていましたが、主人も苦しんでいたことがわかりました。お酒を止めたくても止められなかったこと、アルコール依存症があつての鬱病だつたと思つたこと、療養生活を終え退院して復職する時の辛かつた気持ちなど、少しづつですが素直に話す主人がいます。私も、只々責め続けたことを反省しなければいけません。アルコール依存症という病気が主人をそうさせていたと今なら理解することが出来ます。

呉みどり断酒会に入会して一番良かったことは、私達夫婦に笑顔

と会話が戻つたことです。4年前には、考えられないことでした。亦、渡部会長ご夫妻をはじめ尊敬する先輩方、仲間の方達。例会はもとより、大会や研修会に夫婦で参加し、皆さん方から声を掛けて頂くことで元気を頂き、お陰さまで平穏な生活を送つております。通院においては、現院長長尾早江子先生のご指導のもと規則正しい生活を送つております。



鳥取県断酒会の皆さんと

られたのも、みどりの会の会員・家族の皆さんや朋友断酒会の皆さん。そして、呉みどりヶ丘病院の院長先生をはじめ、スタッフの皆さんから多くの励ましの言葉を頂いたからこそぞと心から感謝しております。ICUから出て来た主人が最初に言つた言葉は、今でもよく覚えてあります。「お酒を止めていて良かった。飲んでいたら死んでいたな：!!」でした。半年に一回の経過観察ではありますが、元気に過ごしてくれていることに感謝しています。

そして、今日は広島から主人の両親、私の父は体調不良のため来られませんでした。母と叔父が来てくれています。今私達が出来ることが健康で断酒し続けることが心配を掛け続けてきた両親への償いだと思つております。主人は、今でも時々仕事のストレスなどでも貝のように口を閉ざすことがありますが、その時も皆さんからの励ましで元気になります。

これからの感謝の心を忘れず、夫婦で断酒会の和の中で例会出席あつての一日断酒で頑張つて参る所存であります。  
ご清聴、有り難うございました。

第52回中国断酒ブロック  
(山口県)大会

早春の4月2日(日)、平成29年度の全国各ブロック大会のトップを切つて第52回中国断酒ブロック(山口)大会が、山口市のある山口市市民会館に於いて、医療、行政、朋友会員・家族の方達、710名余りが参加し、盛大に開催さ



れた。当会からは45名の会員・家族が参加。大会は、テーマ『維新』のもと進められた。また、山口県断酒会の中野英世理事長の歓迎の挨拶の

中で「基本法を断酒会のものにするために一人一人が何をすべきか山口から発信し、断酒維新を実現したい」という言葉から、本大会のテーマ、山口県断酒会のこれからの方向性を伺うことができた。

体験発表は本人の立場から3名、家族の立場から2名により行われ、広島県の代表として当会の胤森佳代子さんが家族の立場から、夫の引き起こす酒害に振り回された日々。アルコール専門病院に入院し、退院後断酒会に繋がり、変わっていった御主人や御家族の日々の生活や心模様を切々と語られ、最後に断酒継続四年を迎えるご主人や発表にも語られてたように佳代子さんの体験発表を聞くために今回参加された御両親や親族の方へのお礼と感謝の言葉で締め括られ、多くの参加者の胸を打つとともに心も温かくなる体験発表だった。

記念講演は山口県立大学社会学福祉学部非常勤講師中村実枝先生が「私の歩んできた道」と題して先生の幼少期に見舞われた不幸を実社会の中で克服しながら歩んで来られた貴重な内容の体験を語られ、多くの参加者に深い感銘を与えられた。

### 第52回四国断酒ブロック

(愛媛県)大会

四国路の木々が萌木色に染まる季節の4月23日(日)、松山市にあるひめぎんホールに於いて、第52回四国断酒ブロック(愛媛)大会が医療、行政、朋友会員・家族の方達508名が参加し、盛大に



開催された。当会からは29名の会員・家族が参加。

大会は、テーマ『時代の変化とアルコール』に則り進められた。体験発表は、本人の立場から2名、家族の立場から2名の各県からの

代表の方により行われた。4名の方がそれぞれの体験を臆することなく語られ、会場内は心に強く響いた参加者の方達の協調の沈黙や笑い声で溢れていた。

午後からの記念講演は、愛媛県医療大学教授・越智百枝先生による「アルコール健康障害の今とこれから」と題して、アルコール依存症者やその家族に対するとらえかたや断酒会に参加する意味など、アルコール基本法が制定された今、自身の断酒生活効果、断酒会効果などを関係機関との連携を深め、広く社会に発信していくことが必要と強く語られた。

最後にNPO法人徳島県断酒会板東千代喜理事長の万歳三唱で盛会裏のうちに閉会した。

### 第16回鳥取県断酒会

一泊研修会

梅雨明け間近の7月15〜16日、第16回鳥取県断酒会一泊研修会が今年も中国地方の最高峰大山の中心にあるホテル「大山」を会場に開催された。当会からも9名の会員・家族が参加。研修は、高原の深緑の中、終始参加者の体験談で進められ、実り多き研修会だった。

### 第23回山口県断酒セミナー

断酒セミナー

新緑も深まる5月27〜28日、山口県セミナーパークに於いて第23回山口県断酒セミナーが130名余りの朋友が参加し、開催された。当会から9名の会員・家族が参加。



寄付者御芳名

(三月度)

呉 中本芳夫様 七、一一〇円  
呉 金子武久様 五、〇〇〇円

(六月度)

呉 須田一郎様 三、〇〇〇円

(七月度)

呉みどりヶ丘病院  
院長 長尾早江子様 六〇、〇〇〇円  
呉 高井行雄様 一〇、〇〇〇円  
呉 福永里美様 五、〇〇〇円  
呉 原本正文様 五、〇〇〇円  
東広島(匿名)様 三、七六八円  
庄原 迫中真也様 三、〇〇〇円

新入会員紹介



●呉市阿賀北六一六二一〇三

新谷 美恵

断酒継続おめでとう

☆一年 河野 博文 7月13日  
☆〃 中林智佐子 7月20日  
☆〃 安岡 利勝 7月20日  
☆〃 高橋 周逸 7月27日  
☆三年 宮本 信之 3月1日  
☆〃 原本 正文 7月2日  
☆四年 澤原 泰幸 5月1日

行事予定

○9月16～18日

第47回広島県断酒会連合会研修会  
(国立江田島青少年交流の家)

○9月23日

第6回リカバリーバレード「回復の祭典」 in 広島 (紙屋町周辺)

○10月1日

第54回全国(広島)大会  
(広島サンブラザホール)

○10月16日

呉みどりヶ丘病院

創立47周年記念・特院

○11月4～5日

第22回ふくやま一泊研修会  
(ツネイシ・しまなみビレッジ)

○11月11日

断酒宣言の日「飲酒運転追放  
全国キャンペーン」(呉駅周辺)

○11月25日～26日

第27回中国フロック断酒セミナー  
(国立江田島青少年交流の家)

○12月13日

第51回酒なし忘年感謝会  
(シテイプラザ・スギヤ)

○1月3日

平成30年 新年合同初例会

平成29年3月～7月度例会動員数

行事名	回	正会員	継続会員	賛助会員	聴取会員	院内会員	77-セカ-	合計
土曜例会	22	664	313	112	169	1,588	418	3,264
水曜例会	22	612	268	5	6	29		920
家族の集い	5		41					41
フロック例会	1	8	4					12
新会員を囲んで	5	42	23					65
院内懇談会	5	5						5
特別院内断酒例会	5	106	31					137
第52回中国断酒フロック(山口)大会	1	30	15					45
第52回中国断酒フロック(愛媛)大会	1	19	10					29
第73回松村断酒学校	1	6	3					9
第23回山口県断酒セミナー	1	7	2					9
第47回広島県断酒(庄原市)大会	1	25	13					38
断酒会創立50周年記念例会	1	10	4					14
第16回鳥取県断酒会一泊研修会	1	6	3					9
全断酒評議員会&第6回定時社員総会	1	1						1
県連理事会	5	31						31
呉みどり断酒会役員会	5	52						52
合計		1,624	730	117	175	1,617	418	4,681

お酒をやめたい、  
やめて欲しい方!!  
呉みどり断酒会の断酒  
例会開催日案内を中国新  
聞の毎月第一水曜日『く  
らし・医療・健康』面  
の『けんこう掲示板』欄に  
掲載しております。  
是非、お越し下さい。

(呉みどりヶ丘病院)

きんさい! きんさい! 広島へ!

広島県アルコール関連  
問題啓発フォーラム



第54回全日本断酒連盟  
全国(広島)大会

- とき/平成29年10月1日(日)
- ところ/広島サンブラザ

- 主催/広島県・公益社団法人 全日本断酒連盟
- 主管/広島県断酒会連合会